

冬を生き抜く

一面真っ白に覆い尽くされた美しい雪景色。雪を見慣れない都会育ちの私にとっては憧れの光景である。しかし見るだけで素晴らしいものであっても、そこで生活するとなると美しいとばかり言うておれない。

日本の冬は国土の約半分が雪で覆われてしまう。その中での豪雪地帯と呼ばれる所で生活している人は約 2000 万人。連日雪と戦い雪の中で生き抜いている。今でこそ交通便が発達しているが、ひと昔前までは道路が遮断され、まるで陸の孤島のような生活を余儀なくされる。そして外に出られない家の中だけの生活が長く続く。



囲炉裏端はどの家庭にもあった。そこは家族が集まる憩いの場でもあった。いつも囲炉裏にはお湯が沸いており、鍋料理に焼きものから火を絶やすことなく皆を温かくしてくれる。また囲炉裏端では内職も冬場の大事な仕事であった。家族皆が手伝い力を合わせ家計の足しにした。こうした環境はある面で家族の絆を深める場でもあったようだ。今では食卓を囲みテレビを見ながらの場所がそれに当たるのかも知れない。

私の住む神戸では冬の季節、寒いには違いないが雪が積もることは一度もない。近所に北海道から来られた婦人が住んでいるが「神戸の冬は寒いですね。北海道はもっと温かいですよ」と言われた。おかしな方だなと思ったがよく聞いてみると、家の中は全て暖房設備が整っており、Tシャツ一枚で冬を過ごしているとか。それに比べて我が家の暖房設備と言えば小型のガスストーブ1台のみで冬を越し、家のなかでは相当な厚着をして家族みんなが生活している。

それぞれの生活がある。しかし家族が暖かければそれで良いのだ。 撮影 2010 年冬

